

[番組名]群馬テレビ「ビジネスジャーナル」

[放送日]2020年12月18日

[テーマ]日銀短観でみる県内経済の足取り

(キャスター) コメントータに専門分野のお話をうかがう『プラスオピニオン』。今回は、日本銀行前橋支店長 渡辺真吾さんに『日銀短観でみる県内経済の足取り』というテーマでお話をうかがいます。渡辺さん、よろしくお願ひします。

(渡辺支店長) よろしくお願ひします。日本銀行は、12月14日「企業短期経済観測調査」——いわゆる日銀短観——を公表しました。本日は日銀短観から読み取れる、県内経済の足取りについてご説明したいと思ひます。まず業況判断D. I. です。

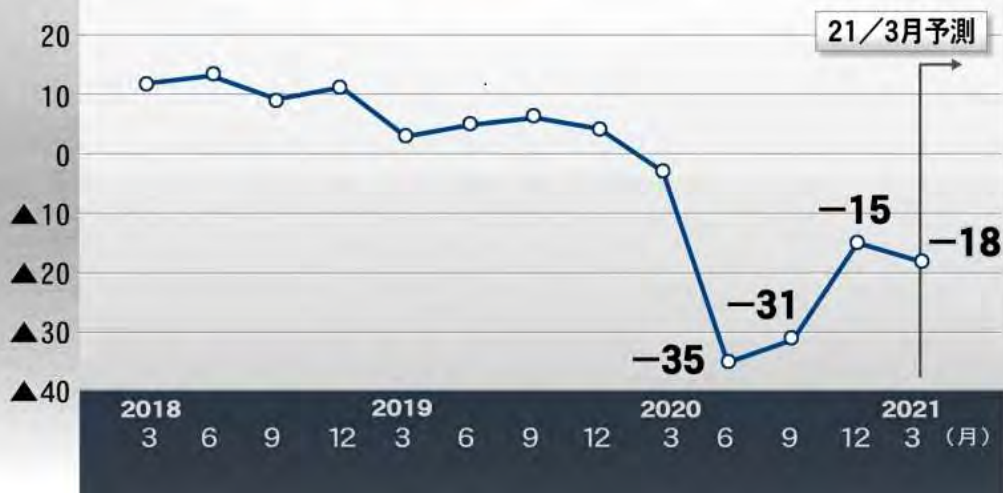
(キャスター) この業況判断D. I.、日銀短観のニュースではよく聞く単語ですよ。改めて、どういったものか教えていただけますか。

(渡辺支店長) 業況判断D. I. は、景気が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値です。「良い」と答えた企業が「悪い」と答えた企業よりも多ければ数値はプラス、少なければマイナスとなります。これまでの調査を振り返ってみますと、群馬県内の全産業の業況判断D. I. は、緊急事態宣言などがあつた直後の6月にマイナス35まで悪化し、前回9月調査では、そこから多少回復して、マイナス31となつていました。

(キャスター) これまでの調査では、県内でも新型コロナウイルスの影響というものが色濃くみられていましたが、今回の調査はどのような結果になつたのでしょうか。

業況判断D.I.(全産業)

(「良い」-「悪い」、%ポイント)



(渡辺支店長) 今回、全産業の業況判断D.I.は、前回から16ポイント改善し、マイナス15となりました。これは、自動車生産の増加とその波及効果、巣ごもり需要の継続、GoToキャンペーンの効果などが背景です。一方、先行きについては、マイナス18と、幾分悪化する見通しとなっています。

(キャスター) 製造業と非製造業に分けてみると、どんな特徴がありますか。

業況判断D.I.(製造業、非製造業)

(「良い」-「悪い」、%ポイント)



(渡辺支店長) 足もとでは製造業・非製造業ともに改善しましたが、先行きは、製造業は改善、非製造業は再び悪化することを見込んでいます。こうした動きについて、次のフリップでさらに業種ごとにみてみます。



(渡辺支店長) こちらは製造業のうち、自動車と非鉄金属の業況判断 D. I. の推移です。自動車については、需要の回復による完成車メーカーの生産増加を受けて、今回、先行きともにはっきりと改善する姿になっています。また、こうした自動車生産の増加を背景に、非鉄金属などの他の業種も、幅広く回復しています。

(キャスター) 非製造業の業況についてはいかがでしょうか。

業況判断D.I. (小売、宿泊・飲食サービス)

(「良い」-「悪い」、%ポイント)



(渡辺支店長) 非製造業については、巣ごもり需要の追い風が続く小売が、足もとプラス14まで改善しています。もっとも、先行きはこうした巣ごもり需要の一服や、雇用・所得環境の弱さの影響を懸念する声なども聞かれており、再びマイナスまで悪化する見通しとなっています。

(キャスター) 一方、宿泊・飲食サービス業では、今回プラスマイナスゼロまで回復しましたが、先行きは再び大幅に悪化する見通しとなっていますね。

(渡辺支店長) はい。最近では、GoTo トラベルキャンペーンの効果もあり、いったんは宿泊客数が回復したとの声が聞かれていました。しかし、足もとの感染再拡大を受け、年末年始の予約キャンセルがみられるようになるなど、先行き不透明感が強いことが窺えます。

(キャスター) それでは、県内企業の売上や収益の計画は、どのようになっているのでしょうか。

売上高・収益計画

前年同期比・%

	2020年度 計画	上期	下期
	売上高	▲7.5	▲13.9
経常利益	22.0	21.8	22.4

(渡辺支店長) 2020年度通期でみると、売上高は、製造業の減収計画を受け、全体でも前年度比▲7.5%の減収計画となりました。一方、経常利益は、巣ごもり需要が追い風となった一部の非製造業の増益計画を受け、全体では+22.0%の増益計画となっていますが、こうした一部の動きを除けば、全体として減益の計画となっています。こうした業績の見通しを踏まえつつ、次のフリップで、設備投資計画をご覧ください。

設備投資計画

前年度比・%

	2019 年度 実績	2020 年度 計画	前回調査比 修正率
	全産業	0.4	▲11.4
製造業	▲1.4	▲15.4	▲3.4
非製造業	6.1	0.6	2.1

(キャスター) こちらをみますと、2020年度は前年度比▲11.4%減少する計画になっていますね。

(渡辺支店長) はい。特に製造業で▲15.4%と大きく減少する見通しです。これは、業況の悪化や感染症による不確実性の高まりを受け、不要不急の投資を先送りする動きがみられることが背景です。ただし、前回からの修正幅は大きくなく、ここに来て一段と設備投資意欲が減退しているとはみていません。

(キャスター) 改めて、県内の景気が新型コロナウイルスの影響を強く受けていることがよくわかる内容ですね。それでは、以上を踏まえた上で、今回の短観結果のポイントは何でしょうか。

(渡辺支店長) 要約すると、次の3点です。

1点目は、業況判断は、前回に引き続き持ち直していることが確認された点です。先行きについても、自動車とその関連業種では、改善が続く見方になっています。

2点目は、そうは言っても、全体として業況判断D.I.の水準は低く、サービス業を中心に、慎重な見方が窺えることです。本年6月にかけての落ち込みに対し、これまで取り戻したのはその約半分に止まっています。

3点目は、事業計画をみると、全体としてみれば、9月短観で示された計画からの修正は小幅だったということです。すなわち、前年度対比でみて、一部大企業を除けば、減収・減益であり、設備投資も減少する姿となっています。また、売上・収益が、下期にかけて回復するという見通しは維持されています。

こうした短観の結果も踏まえますと、県内景気は感染症の影響から引き続き厳しい状態にありますが、持ち直しているとみています。ただし、今後の業況や事業計画など、引き続き注意が必要な結果だと考えています。

(キャスター) 本日は、「日銀短観でみる県内経済の足取り」をテーマに、日本銀行前橋支店長の渡辺真吾さんにお話をうかがいました。

渡辺さん、ありがとうございました。

以 上